

KYOTO UNIVERSITY

GUIDE BOOK 2026



京都大学案内 2026年度入学生用
知と自由への誘い



KYOTO
UNIVERSITY

京都大学にゆかりのある11人のノーベル賞受賞者

京都大学は、国内はもちろん、アジアの大学で最多となる11名ものノーベル賞受賞者を輩出しています。
その要因のひとつは「自由の学風」に基づく「対話を根幹とした自学自習」が促す創造精神の涵養にあります。
しかもそれは、創立から125年余を経た京都大学にいまなお、しっかりと息づいています。
11名の先達と同様に、だれもが次のノーベル賞受賞者になりうるのです。



1949年
物理学賞
湯川 秀樹



1965年
物理学賞
朝永 振一郎



1981年
化学賞
福井 謙一



1987年
生理学・医学賞
利根川 進



2001年
化学賞
野依 良治



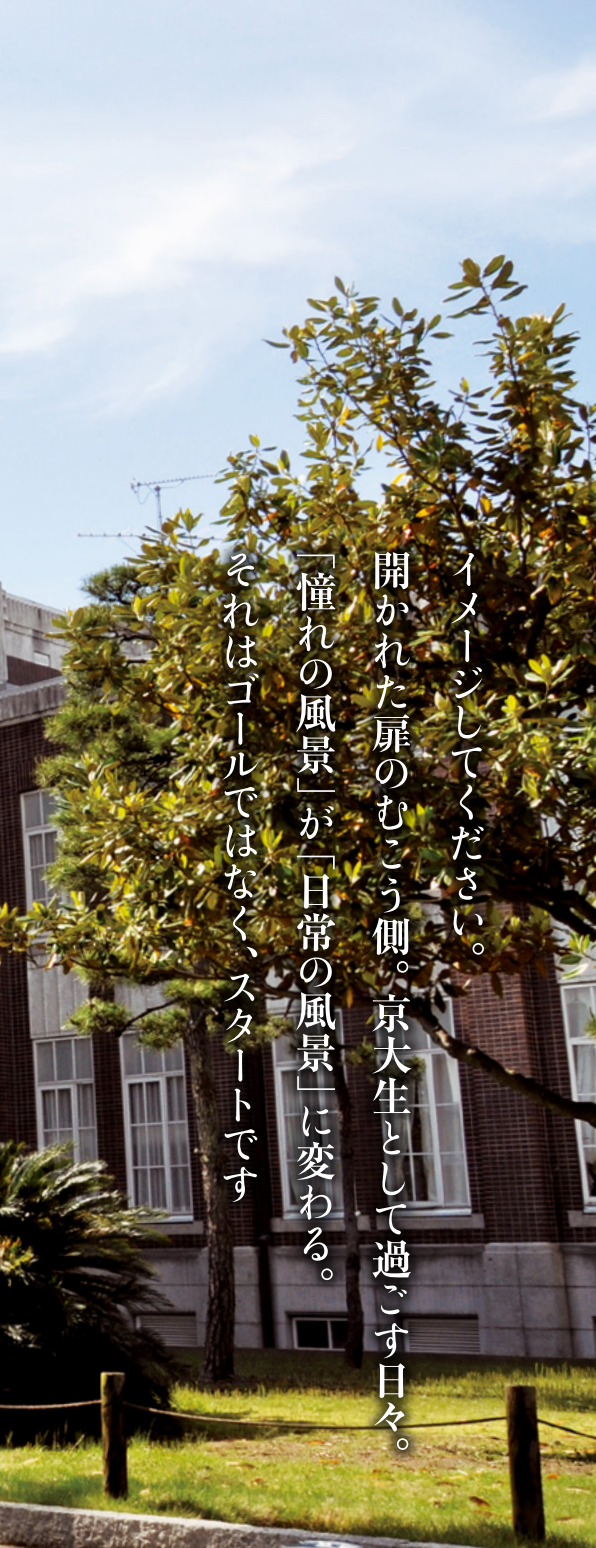
2008年
物理学賞
益川 敏英



2008年
物理学賞
小林 誠



2012年
生理学・医学賞
山中 伸弥



イメージしてください。
開かれた扉のむこう側。京大生として過ごす日々。
「憧れの風景」が「日常の風景」に変わる。
それはゴールではなく、スタートです

百周年時計台記念館

京都大学のシンボルとして親しまれるこの建物(は、建築学科初代教授の武田五一の設計で1925年に誕生。1997年の創立百周年を記念して最新の免震構法を取り入れて改修され、2003年に百周年時計台記念館として生まれ変わった。



2014年
物理学賞
赤崎 勇



2018年
生理学・医学賞
本庶 佑



2019年
化学賞
吉野 彰



有機的につながる京都大学の学びの場

学部とつながる10の大学院のほか、
学部をもたない独立研究科、
高度で専門的な職業能力をもつ実務家を養成する専門職大学院など、
計18の大学院を備えています。
また、12の附置研究所でも世界に誇る独創的な学術研究が
日々、くりひろげられています。

■ 京都大学の基本理念(抜粋)

京都大学は、創立以来築いてきた自由の学風を継承し、発展させつつ、多元的な課題の解決に挑戦し、地球社会の調和ある共存に貢献するため、自由と調和を基礎に、ここに基本理念を定める。

教育

京都大学は、多様かつ調和のとれた教育体系のもと、対話を根幹として自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめる。京都大学は、教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する(平成13年12月4日制定)。

アドミッション・ポリシー

京都大学は、日本の文化、学術が育まれてきた京都の地に創設された国立の総合大学として、社会の各方面で活躍する人材を数多く養成してきました。創立から1世紀以上を経た21世紀の今日も、建学以来の「自由の学風」と学術の伝統を大切にしながら、教育、研究活動をおこなっています。

京都大学は、教育に関する基本理念として「対話を根幹とした自学自習」を掲げています。京都大学の目指す教育は、学生が教員から高度の知識や技術を得つつ、同時に周囲の多くの人々とともに研鑽を積みながら、主体的に学問を深めることができるように教え育てることです。なぜなら、自らの努力で得た知見こそが、次の学術展開につながる大きな力となるからです。このため、京都大学は、学生諸君に、大学に集う教職員、学生、留学生など多くの人々との交流を通じて、自ら学び、自ら幅広く課題を探索し、解決への道を切り拓く能力を養うことを期待するとともに、その努力を強く支援します。このような方針のもと、優

れた学知を継承し創造的な精神を養い育てる教育を実践するため、自ら積極的に取り組む主体性をもった人を求めています。

京都大学は、その高度で独創的な研究により世界によく知られています。そうした研究は共通して、多様な世界観・自然観・人間観に基づき、自由な発想から生まれたものであると同時に、学問の基礎を大切に研究、新しい基礎そのものを極める研究であります。優れた研究は必ず確固たる基礎的学識の上に成り立っています。京都大学が入学を希望する者に求めるものは、以下に掲げる基礎的な学力です。

- (1) 高等学校の教育課程の教科・科目の修得により培われる分析力と俯瞰力
- (2) 高等学校の教育課程の教科・科目で修得した内容を活用する力
- (3) 外国語運用能力を含むコミュニケーションに関する力

このような基礎的な学力があてはじめて、入学者は、京都大学が理念として掲げる「自学自習」の教育を通じ、自らの自由な発想を生かしたより高度な学びへ進むことが可能となります。

京都大学は、本学の学風と理念を理解して、意欲と主体性をもって勉学に励むことのできる人を国内外から広く受け入れます。

受入れにおいては、各学部の理念と教育目的に応じて、その必要とするところにしたがい、入学者を選抜します。一般選抜では、教科・科目等を定めて、大学入学共通テストと個別学力検査の結果を用いて基礎学力を評価します。特色入試では、書類審査と各学部が定める方法により、高等学校での学修における行動や成果、個々の学部・学科の教育を受けるにふさわしい能力と志を評価します。

みずからの 内なる声こそ 羅針盤

湊 長博

Nagahiro Minato

京都大学 総長

高

校生の私にとって、大学という場所は中になが入っているのかわからない、玉手箱のように見えました。インターネットが普及した現代とは違い、当時の地方の高校生がふれられる大学の情報は限られたもの。京都大学医学部を選んだのも、化石好きが高じて生命の起源を学べる場所を探した結果、高校の教師から「生命なら医学部だ」と。

高校時代は数学少年でもありました。一癖ある数学の問題があると、授業そっちのけで数式と向きあった。好きなことを楽しみながら追究し、どんどんなめり込む。私の選択は、そうした反応の連続です。大学卒業後のキャリアなど、考えてもみなかった。とにかく胸にあったのは、「新しいことが待っているに違いない」という大きな期待でした。

新たな環境にさらされ、未知の自分と出会う

とはいえ、入学した年は大学紛争の真っ只中。長らく続いたコロナ禍よりもひどい状態で、授業は開講されず、空いた時間を埋めるように読書をしました。大きな出会いは、F・M・バーネットの『Cellular Immunology』。現代免疫学の理論を確立し、ノーベル生理学・医学賞を受賞した名著です。夢中になりましたが、わからない用語があると、とたんに理解できなくなる。一人で読んでいては埒があかないと、免疫学の研究室を訪ねました。

研究室のメンバーは3回生の私をこころよく迎え入れてくれました。「実験がしたい」という直談判にも二つ返事で了承し、好きにさせてくれた。実験というものは、失敗・成功にかかわらず、かならずなにかが起こる。その現象を見て、考える。このプロセスに、「これまでにのめり込んだなかで、実験がいちばんおもしろい」と魅了されました。

のちの研究テーマである「がん免疫」に出会ったのも『Cellular Immunology』でした。最終章、期待に胸を膨らませてページをめくると、たったの数ページで終わってしまった。「〈がん免疫〉というものを信じているが、残念ながらわかっていることはほとんどない」と。未知への探究心がふつつつと湧いてきました。

私にこそできるサイエンスを見いだす

転機は5回生。入り浸っていた研究室の教員の協力で、学

部生ながら英語論文を執筆しました。著名な学術誌に掲載されると、「うちで研究しないか」とアルバートアインシュタイン医科大学から連絡があった。師匠と仰ぐことになるバリー・R・ブルーム博士からでした。卒業まで待ってもらいはしましたが、即断して渡米。がんと免疫に関する研究をはじめたのです。

ですから、私は大学院に進んでいません。さらに就労条件すら聞かずに海を渡りましたから、リスクな選択だともいえます。でも、私にとっては自然のなりゆき。好きなことに一所懸命に取り組んでいたら、道ができた。リスクをとらず、着実に前進するのも一つですが、そうすると成功してもあまり驚きはない。それなら、自分の内なる声に従い選択したい。アメリカで3年を過ごしたあとも同じです。ブルーム博士の勧めでお会いした石坂公成先生の一言で、日本に戻り、内科医としてはじめて患者を診ることに決めた。当時の私には、もっとも先の読めない選択でした。

学生時代の臨床研修先は呼吸器内科。肺がんは当時、きわめて死亡率の高い疾患。一人も助けられない、厳しい現実に打ちのめされました。それ以来、〈謎解き〉のサイエンスに没頭してきましたが、医師としてふたたび、がんの患者と向きあうなかで、これまで挑戦してきた私のサイエンスの意義が明確になった。〈患者がいる・腫瘍がある〉という事実はどう対応するのか。この視点こそが私のサイエンスの根拠だと。

12年の臨床経験のなかで、「治したい」という医師の思いに応えるには、サイエンスが追いついていないことも痛感しました。患者を知る私にこそできるサイエンスがあるはずだと、基礎研究の道に戻ることを決めたのです。当時、臨床から基礎研究に戻る例はめったになかった。だけど、私にとっては、これも自然のなりゆきでした。

想像できない道を選び続けた

それから京都大学で20年、研究を続けました。最終的には、のちにノーベル賞を受賞した本庶佑先生と組んだ研究が実を結び、がんの新たな療法を確立しました。私たちのマウスでの実験は、米国でヒトに応用され、メラノーマ患者の4～5割、肺がん患者の2割を治癒することに成功しました。肺がんが治るなんて、学生時代にはありえなかったこと。報せを聞いたときは、ほんとうにうれしかったです。



将来のことなど考えず、
読書に明け暮れ
出会った一冊が進む道を決めた

湊総長大学時代

頭から離れない一言があります。米国のがんに関するシンポジウムで、ある研究者に観客が問うたのです。「すばらしい研究です。ところで、一人でも治療に成功したのですか?」。がんの研究はたんなる〈研究〉ではだめだ。そう突きつけられたのです。でも、いまなら胸を張り、「はい、成功しました」と答えられる。あのときの観客の方たちにも届く仕事ができただことは、私の誇りです。

ターニングポイントに立つたびに、先の読めない道ばかり選んできました。たしかに、まっすぐにのびる見晴らしのよい道を歩くの



勉強するからには楽しまないと損。
一所懸命に、「いま」を楽しめ!

は気持ちいい。だけど、私は曲がり角が現れたときにこそ、ワクワクする。どうせ先は見えないのだから、みずからの声に従い、行きたい道をゆく。型通りに進む人生はおもしろくないですからね。

みなと・ながひろ

1951年、富山県に生まれる。専門は医学、免疫学。京都大学医学部卒業。医学博士。京都大学大学院医学研究科長・医学部長、京都大学理事・副学長、プロボストなどを歴任。本庶佑特別教授との共同研究は、新しいがん免疫療法として結実し、本庶特別教授の2018年ノーベル賞受賞にも繋がった。



不可思議な図が開いた、
知覚心理学への扉。
見て聞いて触って、
心理現象は知覚から生まれる

蘆田 宏 Hiroshi Ashida

文学部／大学院文学研究科 教授

左下にあるのは「フレイザーの渦巻き錯視」とよばれる図です。書かれているのは同心円ですが、渦を巻くように見えます。大学1回生の授業でこうした図と出会い、実験心理学の世界に足を踏み入れました。目で見ていものとはならずしも、疑いなくそのまま信用できるものではない。そう痛感し、人間の〈ものを見る仕組み〉を深く調べてみたいと思ったのです。右下はその後出会った「オオウチ・シュピルマン錯視」とよばれる図です。中央の円の中の模様が動いて見えますが、もちろん、図が動くことはありません。これらの錯視は私たちの眼の動きと脳の仕組みによって生じます。

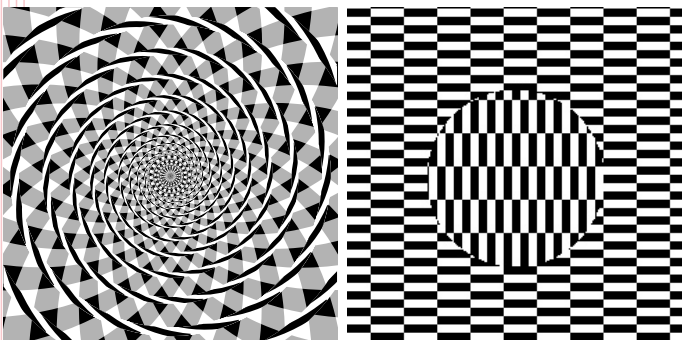
心理学と一言でいっても、研究手法や扱う対象は多岐にわたります。京大文学部の心理学専攻は、動物のこころとの比較から人

間のこころを考える比較認知科学、乳幼児から大人になるまでのこころの変化・発達を研究する発達科学、脳神経科学を基礎とした認知神経科学、視覚や聴覚などの知覚を対象とする知覚心理学の4つの研究室からなります。いずれも、実験をとおして、データやエビデンスに基づいて仮説を立てて、考察することが特徴です。

私は知覚心理学、とくに視覚を対象に研究しています。知覚はいわば心理学の入り口。こころがなにかを感じるとき、そこにはかならず「知覚」があります。見たり、聞いたり、触ったりする知覚なしにこころの活動ははじまりません。しかも、知覚には個人差があり、同じ錯視の図を見ても錯覚が起きない人もいます。ものの見え方の違いが、その先にあるこころの動きや考え方の違いを生むのかもしれませんが、知覚の仕組みの理解は、心理学はもとより、人間のさまざまな営みを考える基礎ともいえるでしょう。

くわえて、知覚心理学の魅力は、みずから実験対象にできること。研究成果としては客観的な理論の組み立てをめざしますが、原点には「私にはこの図がこう見える」という自分の経験があるのです。

「自由の学風」を味わいたくて京大に進学しました。学生主導の勉強会がさかんで、先生に頼らずとも最先端の知識を学ぶ気概にあふれていました。その気風はいまの学生たちにも感じます。みずからの内から生まれる好奇心がなければ、京大の学びは謳歌できません。たくさんの経験をしながら、「これだ」という道を自分で選び、ときにはみずから切り拓く。それが「自由の学風」を堪能するコツです。



左／フレイザーの渦巻き錯視。同心円が中心から拡がる螺旋のように見える (Wikipediaより、public domain) 右／オオウチ・シュピルマン錯視。眼あるいは図を動かすと、円の内部がずれて動くように見える

あしだ・ひろし

洛星高等学校出身。京都大学大学院文学研究科博士後期課程修了。立命館大学文学部助教授、情報通信研究機構客員研究員などを経て、2015年から現職。

図の出典

左／Wikipedia (https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Fraser_spiral.svg)、public domain
右／蘆田教授による再構成



隕石に心を掴まれ30年。

小惑星探査機「はやぶさ」と

「はやぶさ2」が連れてきた夢の物質

野口 高明 Takaaki Noguchi

理学部／大学院理学研究科 教授

隕石は、触れて、見ることで「46億年前」の真実の一部。地球に落ちた隕石を調べると、その99%は小惑星由来です。小惑星は太陽系の原始的な天体で、46億年前にできたと考えられています。

隕石は、地球に落ちてからすぐに地球の大気や水分と反応します。2010年、小惑星探査機「はやぶさ」の分析チームの一員だった私は、帰還したサンプルから小惑星「イトカワ」の微粒子を見つけました。宇宙空間から、大気に触れずにやってきた物質です。「ついに隕石のもとに出会えた!」。長年の夢が叶った瞬間でした。

隕石の研究を志した大学時代、日本の惑星物質科学は発展途上で、当時は日本語の教科書もない状況でした。そんななかで見つけた書籍では、隕石を溶かして化学的な分析がされていたのですが、私は「溶かすことで重要な情報が抜け落ちてしまうのではないかと」と疑問に思い、地学の知見を身につけて、固体のまま隕石に迫る方法を模索しはじめました。

転機は1997年。とある研究会で、ついに日本から小惑星探査機が打ち上げられると耳にしました。採取できるのは砂粒サイズとのことでしたが、私はすでに微粒子の分析技術をもっていたので、コンペに参加し、晴れて分析チームの一員に選ばれたのです。

探査機が帰還するまでの13年間は、ひたすら分析技術を磨きました。カプセルを開けるのは一度きりで、失敗は許されません。いかに大気に触れずに作業できるか、本番前から本番までの1年半はJAXAの宿舎に滞在し、シミュレーションを重ね、本番を迎えました。いまでも、カプセル開封時の興奮は忘れられません。緊張のあまり、手が震えて作業にならない仲間もいるくらいでした(笑)。そして、探査機から発生した細かなゴミの中から、小惑星の微粒

子を見つけたのは帰還から3か月後のことでした。

微粒子1粒1粒に、それぞれの46億年がつまっています。詳しく調べてみると微粒子の表面には、宇宙空間にさらされた証拠が残っていました。小惑星の表面でどんな時間を過ごしてきたのか、調べるほどに違いが見つかり、個性が際だつ。そのおもしろさが私を魅了してやみません。

私が「はやぶさ」のチームに選ばれたのは37歳、微粒子を手にしたのは49歳。「はやぶさ2」の採取してきた「リュウグウ」微粒子を手にしたときには59歳でした。日本の太陽系小天体探査機の次なる打ち上げと帰還は、私の定年退職後です。若いみなさんは、つぎの分析に参加できるまたとないタイミング。知見と技術を磨き、力を身につける忍耐の先に待つ喜びを、ぜひ味わってほしい。ともに惑星科学を牽引し、ロマンを追いかける仲間を待っています。



左／実験室(クリーンルーム)内に設置したグローブボックス内で、はやぶさ2探査機が小惑星リュウグウから回収した試料を扱うところ



右／40年近く前に地質巡検で行った山梨の昇仙峡での写真。中央が野口教授

のぐち・たかあき 麻布高等学校出身。東京大学大学院理学系研究科博士課程修了。2021年から現職。初期太陽系における物質進化から大気のない天体表面での現在起きている過程までを対象として、地球外物質の研究を30年以上にわたって行う。2018年から2023年まで「はやぶさ2」サンプルリターン初期分析チームの微小粒子分析サブチームのリーダーを務めた。



応用範囲の広さが情報学の魅力。

数学とコンピュータの架け橋となり、

「最適な選択」を導く

福田エレン秀美 Ellen Hidemi Fukuda

工学部情報学科／大学院情報学研究科 准教授

「目的地までの最短ルートが知りたい」、「限られた予算で利益を最大化したい」。みなさんの生活でも最適な選択を知りたいという場面があるのではないのでしょうか。そうした課題を数式に置き換え、コンピュータで解決策を導く技術が「数理最適化」。地図アプリや物流コストの削減、人工知能など、幅広い分野で応用されています。私はそのなかでも、課題を解決するための処理手順であるアルゴリズムの開発に取り組んでいます。

子どものころから数学が大好きで、今でも目に見えるグラフや図で表現できる分野に惹かれています。たとえば、利益の最大化を

考える場合、連続して変動する目的関数としてグラフに表せます。なめらかな曲線か、鋭角に折れ曲がるかなど、関数の数学的な性質をイメージして解決策を考えるのがとくに楽しいです。ただし、数学的に解けても、実用的かどうかは別問題。コンピュータは有限の桁数しか扱えませんし、処理に時間がかかれば実装することはできません。数学的な理論をいかにコンピュータに落とし込むか。その橋渡しが私の役割です。

研究の道を選んだのは、大学生のころに話題になったGoogleなどの検索エンジンがきっかけでした。線形代数を活用することで検索精度が格段に向上していて、探究心に火がつけました。情報学は幅広い分野の研究に応用できることが魅力のひとつ。情報学研究科には工学や医療、生物学などの多彩な分野で活躍する教員がいて、共同研究による社会実装にも挑戦しています。学部は工学部以外の人でも、大学院から情報学研究科で研究する道も開かれています。

私はブラジルのサンパウロで生まれ育ちました。サンパウロ大学で博士号を取得し、2011年に共同研究者として京大に着任。京大は教員と学生の距離がとても近く、他学部や留学生とも交流しやすい環境が魅力です。また、ブラジルの高校や大学には部活がありませんので、個性的なサークルがたくさんあるのも羨ましい環境です。新入生には積極的に多くの人と交流し、友人をつくるよう薦めています。友人は困ったときに助け合えるかけがえのない財産。思い切って声をかければ、学生生活をより満喫できるはずです。



左／マレーシア・サンウェイ大学での発表風景。情報学の学会はさまざまな国で行われている
右／旅行で訪れたゴルドー大聖堂。国内外を問わず、旅行でリフレッシュすることも多い



ふくだ・えれん・ひでみ

サンパウロ大学応用数学博士課程 修了。カンピーナス大学 博士研究員、京都大学大学院情報学研究科 助教などを経て、2019年から現職。第16回京都大学たちばな賞(優秀女性研究者賞)受賞。



「いちはやく地震を知らせる」を目標に

緊急地震速報システムの

改善に取り組む

山田 真澄 Masumi Yamada

防災研究所／大学院理学研究科 准教授

地上に揺れが伝わる前に地震の発生を知らせる緊急地震速報。国内約2,000か所の観測点とデータの伝送技術、データから地震の規模や震源を即座に推定する計算手法からなるリアルタイム警報システムです。博士課程でこのシステムに出会って以来、「地震の発生を知らせる」というゴールの明確さに惹かれ、システムの開発・改善に力を注いでいます。

日本では気象庁が2007年に緊急地震速報の運用を開始したものの、当時はあまり重要視されておらず、研究成果の実用化にはほど遠い状況でした。風向きが変わったのは、2011年の東日本大震災。同時発生した複数の余震を一つの大きな地震と間違っただけで検知してしまうなどの誤作動が相次ぎ、システムの不十分さが露呈しました。改善に取り組む気象庁とともに、複数の震源を高精度で識別する新たなシステムを開発。2016年には念願の実装が実現しました。いまでも地震が起こるたびに「もっとはやく検知できたはず」という改善点が見つかります。よりはやく正確に地震の危険を伝えることを目標にアップデートを重ねています。

しかし、今の研究に最初から興味があったわけではなく、学生時代は紆余曲折の日々でした。京大工学部の建築学科に入学したのですが、当初は、建築設計デザインを学びたいと思っていました。ところがデザインに関心のある学生はみんな個性的で才能溢れる人ばかりで、「これはかなわないな」と早々に断念。4回生のゼミ選択では、建築の歴史のゼミに所属し、思いもよらずお寺の古文書を読むことになりました。それでも人生わからないもので、みずから問いを立てて答えを探す研究の魅力をそのゼミではじめ

て味わい、研究者を志すようになりました。

自分がしたいことは何なのか、まだはっきりしない人も多いと思いますが、無理に焦って絞り込む必要はありません。大学入学後に出会う先生や先輩から話を聞き、本やインターネットで興味の湧いたことを調べながら積極的に情報に触れていると、きっと将来につながる思わぬ出会いがあるはずです。新しいことに取り組むのに、遅すぎるということはありません。京大では、好奇心の赴くままに自由な学びの時間を謳歌してください。



左／地震の調査・観測のために、世界各地のフィールドに赴く。写真はネパール・ゴルカ地震のあとに行った建物被害調査での一枚
下／防災研究所の男女共同参画事業の一環として監修を務めた『京大リケジョ物語』。等身大の理系女性を知ってもらおうと、人気漫画家に依頼した



やまだ・ますみ

愛知県立明和高等学校出身。京都大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程、カリフォルニア工科大学理工学科 Ph.D. 課程 修了。京都大学次世代開拓研究ユニット 助教、京都大学防災研究所 助教などを経て、2022年から現職。第15回京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）受賞。

オンライン版はこちら
漫画制作：山本アリフレッド



濃密な時間の流れる、
京大という創造空間。
人との出会いが新たな世界に導く



民間企業はもとより、研究者、官公庁など、さまざまなフィールドで京都大学の卒業生たちが活躍しています。そんな卒業生たちも、かつては皆大学生。生まれ育った地を飛び出して一人暮らしをはじめたり、学びの自由さに驚いたり、将来の不安を覚えたり、かけがえない一生の出会いを経験したり……。今回母校に集まったのは、世代の異なる3名の女性。忘れがたい濃密な大学生活をふり返ってもらいました

若井好身さん①

東海旅客鉄道株式会社(JR東海)勤務

飯塚明日香さん②

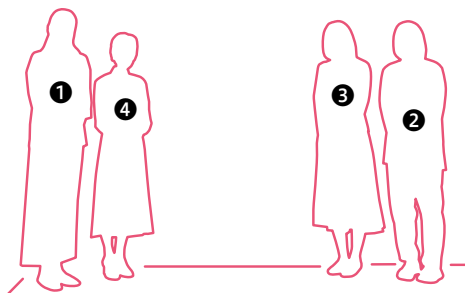
株式会社GSユアサ 勤務

町田亜希さん③

気象庁 勤務

稲垣恭子④

京都大学理事・副学長



稲垣 お三方とも、関東の女子高ご出身ですね。どうして、はるばる京都大学に來られたのですか。

若井 当時、私の周囲には関西に進学する人はほとんどおらず、私も実家から通える大学しか念頭にありませんでした。でも、予備校の先生に京大を紹介されて、高3の秋に母と実際に京大を訪ねました。東京にはない空の広さに感激して、「ここで学びたい」と一目ぼれ。もっとも、両親は「きつと無理だろう」と思っていたはずですが(笑)。

町田 関西には親戚が多く、なじみはありましたが、私の両親も最初はとりあってくれませんでした(笑)。「ぜったいに京大に行きたい」と唱えているうちに、「そんなに行きたいんだったら……」と、最終的には背中を押してくれました。

飯塚 京都を選んだいちばんの理由は、東京は都会すぎて怖かったこと(笑)。その点、修学旅行で來た京都は学生がたくさんいて活気もあるし、「過ごしやすそうなまち」という印象を持っていました。私の場合は、最初から両親も高校の先生たちも応援してくれました。

「自由の学風」吹き荒れる京都大学に

稲垣 私は広島県の出身ですが、大学から京都に來て印象的だったのは関西弁(笑)。みなさん、京都や京大はどんな印象でしたか。

若井 一人っ子の「箱入り娘」として育てられた私が突然、野に放たれた感覚でした(笑)。最初は友人もいませんし、学業面では高校と同じようなやり方で学ぼうとして、いきなり行き詰まりましたね。それまでの「正しい」と思っていた世界観を脱ぎ捨てる必要だとわかり、挑戦しては失敗、そのくり返しでした。でも、自分で考え、納得しながら学び進める楽しさを学ぶことができました。

町田 理学部は3年生で専攻分野を選ぶので、それまでは分野を決めずに多様な授業が受けられました。知的好奇心の赴くまま学べる雰囲気は、私の肌に合っていましたね。そうして迷いに迷った結果、選んだ分野は入学時には思いもしなかった宇宙物理学。

稲垣 理学部は2年間、模索できる時間がある。京大らしい仕組みですね。でも、どうして理学部を選んだのですか。

町田 高校生の時に発生した東日本大震災にとても大きな衝撃を受けて、自然科学の力で減災や防災に貢献できないかと思ったこ



若井好身さん

東海旅客鉄道株式会社(JR東海)勤務

横浜雙葉高等学校 出身

2006年3月 教育学部 卒業



上/乗務員研修時代。安全・安定輸送の最前線での経験と学びはいまなお仕事に活かしています
右上/学生時代に夜のスタジオにて。練習後は仲間と生き方や将来について語り明かした
右下/8歳と5歳になった娘たちと霧ヶ峰にて





稲垣恭子

京都大学理事・副学長
(男女共同参画、渉外(基金・同窓会)担当)

とがきっかけです。でも入学後、授業で見た太陽の写真の美しさに惹かれて、宇宙への興味が湧いてしまって。志を貫くべきか、ものすごく迷いましたが、「太陽に出会ったのもひとつの縁」と宇宙物理学に方向転換を決めました。

稲垣 入学時に学びたいことを決めていても、出会いがもたらす影響は大きいんですね。飯塚さんはいかがですか。

飯塚 もともと地球環境問題や太陽光発電などの研究に興味があって、工学部工業化学科(現・理工化学科)を選びました。入学してみると、扱うテーマは有機化学、無機化学、物理化学などと想像以上に幅広い。どこから手をつければよいのか、学部生時代はかなり悩みました。蓄電池などを取り扱う電気化学をテーマに決めてからは、的を絞って深く追究する研究スタイルが性にあっていたので、楽しい研究生活でした。

ふたたび悩みが生まれたのは就職活動。工学系は専門分野をいかそうとすると、就職先の選択肢が限られてしまう。歩むべき道が定まるのはよいことでもあるのですが……。

町田 私は理学系ですが、就職活動をするなかで同じような悩み

がありました。

稲垣 最後はどう決断しましたか。

飯塚 私はいままでの研究内容をできるだけいかせる企業への就職を決めました。

町田 これまでの研究内容をいかせる世界に進むべきか、分野は変わっても人の役にたてる仕事をするかと迷いました。この二つを並行して進めるなかで気象庁への採用が決まり、「ここががんばれということだ」と心を決めました。

学生時代の贅沢で濃密な時間の流れ

若井 大学時代、工学部の友人で「人間みたいなAIをつくりたい!」と本気で考えている人がいました。いまでこそAIは身近な存在ですが、当時はそんなことが実現可能だなんて、思いもしませんでした。自分の常識では考えられないことを普通に話す、高校生までの私の世界にはいなかったタイプで、京大だからこそ出会えた人です。

稲垣 京大は、人とは違う心意気を歓迎する大学です。学生どうしはもちろん、教員もおもしろがって背中を押す。自分の好きなことに熱中して、みずからの興味にしたがって一直線に進進する人を見ることで受ける刺激は大きいですからね。

飯塚 研究室に配属されると、専門分野の世界にこもりがちになります。そんなときは、サークルの友人など、ほかの研究室の人と話して視野を広げるように努めていました。

若井 「変人」は、いまも昔も京大では褒め言葉ですね(笑)。私も、ほんとうにいろいろな人に出会いました。

稲垣 自分のなかにも「変人」の部分はあります。「変人」とよばれるような人に出会って、「自分を押し隠さなくてもいいんだ」と、自分のことも許容される感覚を覚えたものです。

若井 どちらかというと控え目で慎重だった私が、いまでは周りの人から「思い切りがいいね」と言われることがあります。もとを辿ると学生時代の影響が大きい気がします。

現在は、管理職として多様なバックグラウンドの人と働いていますが、自分とは違う人たちのことを認めたうえで、力をあわせて事業を進



町田亜希さん

気象庁 勤務

お茶の水女子大学附属高等学校 出身
2019年3月 理学研究科宇宙物理学専攻 修士課程修了



上/学部生のころはサークルで三味線漬けの日々 右上/勤務先のマスコットキャラクター「はれるん」との1枚 右下/泊まり込みで研究生活を送った飛騨天文台。望遠鏡をパソコンで操作して太陽を追いかけて観測します





上／大学のサークル仲間と山登り。卒業して就職してもたまに集まっています 右上／地元近くの栃木、群馬、埼玉の3県境にて 右下／休日は子供とあちこち出かけています。滋賀の彼岸花の名所、桂浜園地にて



飯塚明日香さん

株式会社GSユアサ 勤務

栃木県立栃木女子高等学校 出身

2016年3月 工学研究科物質エネルギー化学専攻
修士課程修了

められるのは、京大の〈カオス〉を知っているからこそかもしれません。

稲垣 カオスの力、いいですね。町田さんも、同じクラスの女子学生たちと「理学女子会」という交流の時間をつくっておられたと聞いています。理学部は女性が少ないので、同性同士のつながりも大切ですね。

町田 月に1回くらいのペースで、だれかの下宿に手料理とお酒を持ち寄って女子会をするのが、研究生活のなかでは息抜きになっていました。研究室のことや将来のことなど本音で相談しあえる大切な場で、確かに女性は少なかったですが、それで寂しさや不安を感じたことはありませんでした。

稲垣 人数が少なくても、そういう時間があると全然違いますね。それに、時間を気にせず勉強にも遊びにも没頭できるのは、大学時代の醍醐味です。

飯塚 私は旅行サークルに入っていたので、その仲間と、お金はないかわりに時間をかけて日本のあちこちを回りました。夏休みに2週間をかけて北海道を巡ったこともあります。いと思うと贅沢な時間だったなと。

若井 仕事や家庭をもつと、そうした時間はなかなかつくれないですよ。

稲垣 私は東京で働いたことがありますが、京都暮らしと大きく違うように感じたのは時間の感じ方。京都では電車移動は少なく、自転車や徒歩での移動。それに、鴨川の水の流れや植物・生きものに自然を感じながらゆったりと過ごす時間。高校から大学、就職までずっと首都圏で過ごしては出会えないものばかりです。

変わりゆく働き方の波を乗りこなす

若井 私は教育学部の出身ですが、お二人のお話を聞いて、一層2人の娘には将来は理系分野に進学してほしいと思ってきました。

就職後の私は、人事や経営企画などの組織づくりにかかわっています。多様な職種を経験して総合的な視野は身につけた自負がありますが、大学時代の専門知識をいかせているのかという……。学んだ分野をいかして働くのは、素直にかっこいいと思う(笑)。

町田 そういう私も、天候などの自然相手の仕事とあっては気象庁に入庁しましたが、実際は人間相手の仕事も多いですよ。予算確保に奔走するなど、お金の悩む仕事もたくさんあります(笑)。

飯塚 年数を重ねると、専門分野以外のもう一つの軸が求められていると感じるようになりました。入社当初は実験ばかりの日々でしたが、いまは業界のトレンドを抑えたり、DX(デジタルトランスフォーメーション)推進にかかわったりと、専門である電池以外のことを考える仕事も増えています。

稲垣 京都大学出身の女性の集い「京都大学ここの会」の主催で、社会で活躍する卒業生と女子学生との交流イベントを実施しています。すると、まだ学部1回生なのに、就職後の子育てと仕事の両立に対する不安を口にする学生がいて驚いたことがあります。

若井 私もそうした場で、高校生や大学生から「育児との両立はできますか」と聞かれた経験があります。私の答えは、「いまは考えても仕方ないから考えない」(笑)。

20代までをふり返ると、眼前のおもしろいことを信じて邁進していました。将来のことは深刻に考え過ぎず、30代で妊娠してはじめて「身重だと走れない」と知るような。どんな人に、どんなことに会おうのかは、そのときにならないとわからない。なので、学生時代は、「不安だから挑戦しない」が、なによりもったいないと思います。

稲垣 企業での働き方の変化は感じますか。

飯塚 私の会社では、女性の産休・育休は取りやすいと昔から言われていましたが、入社した10年ほど前からは男性の育休取得も増えています。

男性と同じスタートラインであっても、女性は育休を取ることでどうしてもキャリアに差が出てしまう不安がありましたから、近年の変化は大歓迎です。私はコロナ禍のもとで出産して、いまは時短勤務です。リモートワークも整備されて、働きやすい方向へとどんどん変わっていることを実感しています。働き方改革も過渡期ですから、みなさんの就職時にどんな制度になっているかはわかりませんよ。

町田 私の職場はまさに過渡期です。国会や政治情勢の影響で忙しくなる時期はありますが、勤務時間を自由に設定できる制度が浸透しはじめています。忙しい時期を乗り切れば、働く時間を短くしたり、勤務時間にメリハリをつけてバランスをとりながら働けるようになってきましたね。

稲垣 仕事には、のめり込まなければならぬ時期はありますからね。研究でも、論文を書き出すまで嫌でたまらない。けれど、書きはじめて楽しくなると、食事や睡眠も忘れてのめり込んでしまう(笑)。

集中しているときは、充実感があります。だけど、それがつづくと疲れが出てしまいますよね。

若井 私も経験があります。コロナ禍に入り、それまでほぼずっと右肩上がりだった東海道新幹線の乗客数がガタンと落ちてしまった。そのとき、私は2度目の産休から復職したばかり。お客様を増やすのがミッションの営業部門で、どうにかしてお客様に戻っていただけないかと皆で手だてを考えていたころはアドレナリンが出て、2年ほど忙しく仕事に熱中しました。すると、仕事と家庭の両方がどうにも立ちゆかなくなりました。上司に相談すると対応してくださいました。昔だったらこうした相談すら、しづらかったと思います。

挑戦してこそ出会える、未知の世界

稲垣 京大でも学童保育所「KuSuKu(京都大学キッズコミュニティ)」を展開して、働く教職員の育児支援を充実させている最中です。KuSuKuは土日祝と小学校の長期休暇の期間に開所しているのですが、土日祝と長期休暇は学会や研究会が開かれることも多く、大学教員からの利用ニーズが多い。

KuSuKuの目玉のひとつは、アカデミック・プログラム。現役の教員や大学院生が子どもたちに講義を行います。京大の先生たちは子ども相手だからといって妥協しない(笑)。だけど、「わかってもらおう」という情熱があって、親子ともに評判は上々です。

飯塚 私の夫も出張が多いので、職場でのそういった育児支援はとても助かります。

若井 私は子どもに教えることも、学校という場も好きですから、いまは小学生の娘のクラスに年に3回ほどお邪魔して、朝に絵本の読み聞かせのボランティアをしています。子どもたちとふれあうたびに、教育学部でもっと勉強しておけばよかったと後悔します(笑)。

稲垣 お子さんが「京都大学を受けたい」と言ったらどうですか。

若井 もう全力応援です(笑)。いずれにせよ、娘たちには18歳になったら一人暮らしをして、新しい世界を見てほしい。

町田 私はまだ子どもはいませんが、これから大学受験を迎えるみなさんにも、京大での驚くような楽しい出会いや、ぐっと深く興味を追究できる貴重な時間を体験してほしい。

飯塚 自分の子どもにも、受験生のみなさんにも、たくさん楽しい挑戦が待っているはずですよ。迷うことがあったなら、それに飛び込んで挑戦してほしい。京大はそれを応援してくれる場所です。

2026(令和8)年度特色入試の変更について

女性募集枠の新設

目的

一部の学部におけるジェンダー・インバランスを解消し、様々な属性や背景を持つ学生同士が十分に語り合い、議論をしながら学びを深める環境を実現するため、キャンパス構成員の多様性の確保を目的とする

開始時期

2026年度入学者選抜から実施
(入学者選抜は2025年度中に実施)

女性募集枠 導入学部

理学部

「物理学・数学」、
「宇宙・地球惑星科学」
の各入試

女性募集枠の
募集人員

15名

工学部

地球工学科、物理工学科、
電気電子工学科、
情報学科、理工化学科

女性募集枠の
募集人員

24名

■ 2026(令和8)年度特色入試(一般枠・女性募集枠) 導入学部 募集人員

理学部

試験実施方式: **総合型選抜**

2つの入試区分で女性募集枠を新設 /

入試区分	特色入試募集人員		
	令和8年度		(参考) 令和7年度
	一般枠	女性募集枠	
物理学・数学入試	—	10	—
宇宙・地球惑星科学入試	—	5	—
化学入試	7	—	—
数理科学入試	5	—	5
生物科学入試	10	—	5
合計	22	15	10
	37		

工学部

試験実施方式: **学校推薦型選抜**

5学科で女性募集枠を新設 /

入試区分	特色入試募集人員			女性募集枠 との併願可
	令和8年度		(参考) 令和7年度	
	一般枠	女性募集枠		
地球工学科	5	5	4	○
物理工学科	5	5	5	○
電気電子工学科	7	7	7	
情報学科	2	2	3	○
理工化学科	15	5	15	○
建築学科	3	—	3	
合計	37	24	37	
	61			

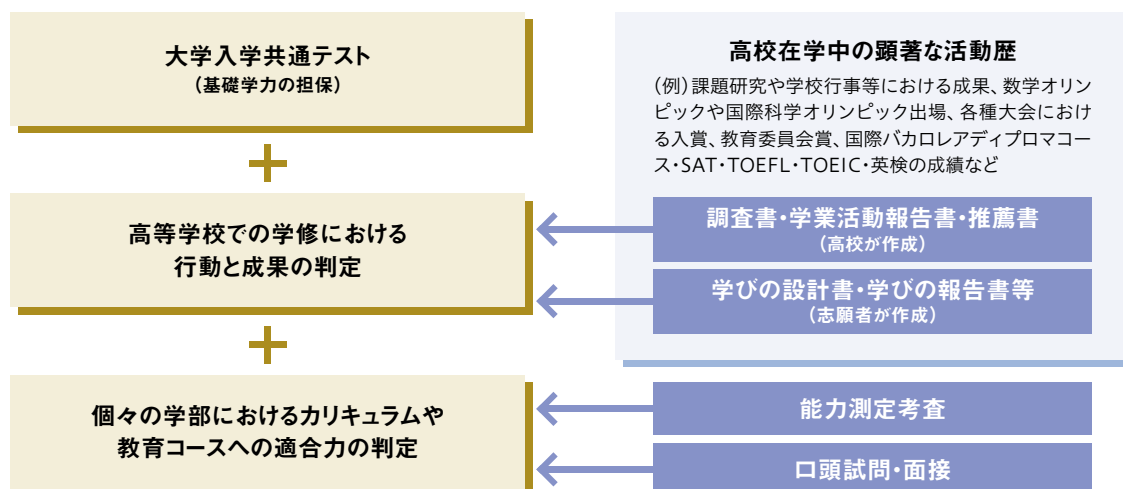
京都大学特色入試は

能力

・ 意欲

・ 志

を多面的・総合的に評価する大学入学者選抜です



■ 学部・学科・コース別の選抜概要

学部・学科・コース			募集人員		選抜方法	試験実施方式	提出書類
			一般枠	女性募集枠			
総合人間学部			5人		書類審査、能力測定考査(文系総合問題、理系総合問題)、共通テスト	総合型選抜	調査書、学業活動報告書、学びの設計書
文学部			10人		書類審査、「学びの設計書」に関する論述試験、論文試験、共通テスト	総合型選抜	調査書、学業活動報告書、学びの設計書
教育学部			6人		書類審査、課題及び口頭試問によるパフォーマンス評価、共通テスト	総合型選抜	調査書、学びの報告書、学びの設計書
法学部			20人		書類審査、小論文試験、共通テスト	学校推薦型選抜	調査書、推薦書、学びの設計書、推薦要件を満たすことを具体的に証明する資料、英語民間試験受験者成績書または合格証明書
経済学部	文系型入試		15人		書類審査、共通テスト	学校推薦型選抜	調査書、推薦書、学びの設計書、顕著な活動・学習実績の概要、英語民間試験受験者成績書または合格証明書(文系型入試のみ)
	理系型入試		10人				
理学部	数理学入試		5人		書類審査、数学に関する能力測定考査、口頭試問、共通テスト	総合型選抜	調査書、学業活動報告書、学びの報告書
	生物科学入試		10人		書類審査、口頭試問、共通テスト		
	化学入試		7人		書類審査、口頭試問、共通テスト		
	物理学・数学入試			10人	書類審査、物理学及び数学(数学Ⅲを含む)に関する能力測定考査、口頭試問、共通テスト		
	宇宙・地球惑星科学入試			5人	書類審査、能力測定考査(小論文)、口頭試問、共通テスト		
医学部	医学科		5人		書類審査、口頭試問、面接、共通テスト	学校推薦型選抜	調査書、推薦書、学びの設計書、TOEFL iBTスコアレポート、特色事項に関する資料
	人間健康科学科	先端看護科学コース	20人		書類審査、論文試験、面接、共通テスト	総合型選抜	調査書、学業活動報告書、学びの設計書
		先端リハビリテーション科学コース(先端理学療法学講座)	5人				
		先端リハビリテーション科学コース(先端作業療法学講座)	5人				
薬学部	薬科学科・薬学科		6人		書類審査、論文試験、面接、共通テスト	総合型選抜	調査書、学業活動報告書、学びの設計書、英語民間試験受験者成績書または合格証明書
工学部	地球工学科		5人	5人	書類審査、共通テスト	学校推薦型選抜	調査書、推薦書、学びの設計書
	建築学科		3人		書類審査、共通テスト		調査書、推薦書、学びの設計書、顕著な活動実績の概要
	物理工学科		5人	5人	書類審査、共通テスト		調査書、推薦書、学びの設計書、顕著な活動実績の概要(一般枠のみ)、学びの報告書(女性募集枠のみ)
	電気電子工学科		7人	7人	書類審査、共通テスト		調査書、推薦書、顕著な活動実績の概要(一般枠のみ)、学びの報告書(女性募集枠のみ)
	情報学科		2人	2人	書類審査、口頭試問、共通テスト		調査書、推薦書、学びの設計書、顕著な活動実績の概要
	理工化学科		15人	5人	書類審査、口頭試問(女性募集枠のみ)、共通テスト		調査書、推薦書、学びの設計書、顕著な活動実績の概要(一般枠のみ)
農学部	資源生物科学科		3人		書類審査、面接、共通テスト	総合型選抜	調査書、学業活動報告書、学びの設計書、英語民間試験受験者成績書または合格証明書
	応用生命科学科		4人		書類審査、小論文、面接、共通テスト		調査書、学業活動報告書、学びの設計書
	地域環境工学科		3人		書類審査、小論文、面接、共通テスト		調査書、学業活動報告書、学びの設計書
	食料・環境経済学科		3人		書類審査、小論文、共通テスト		調査書、学業活動報告書、学びの設計書
	森林科学科		9人		書類審査、小論文、面接、共通テスト		調査書、学業活動報告書、学びの設計書
	食品生物科学科		3人		書類審査、口頭試問、共通テスト		調査書、学業活動報告書、学びの設計書、英語民間試験受験者成績書または合格証明書
合計			191人	39人			